

環境教育・国際協力・環境計画(2) (3-E-10-4～3-E-11-4)

本セッションでは5件の多岐にわたる講演があった。

10-4では、環境関係の研究者と工学部の学生を対象とする環境保護に関するアンケート結果を比較し、世代間の相違を検討したものである。豊かで便利な生活しか知らない学生は、どちらかという制約に対し拒否を示す傾向であることが報告された。会場からは、研究者と同世代の一般の結果を知りたいという意見が出された。

11-1は開発援助専門家へのヒアリングを行い、下水処理システムの課題を明らかにした。その結果をもとに、発展途上国の現状にあわせ、低負荷の流入水におけるラグーン・植生帯の維持管理に関する研究を沖縄でおこなった報告である。

11-2は持続可能な水供給システムの構築のために、小規模分散型水供給システム導入前後にCO₂・エネルギー排出量、河川流量、地下水涵養量を、滋賀県野洲川流域において、定量した研究である。分散型水供給システム導入により、水資源面で効果があるものの、CO₂・エネルギー削減面では効果がないことが報告された。

11-3は日本三大酒蔵と呼ばれ酒造りがさかんな広島県西条地区において、湧水・地下水・河川水の水質を分析し、上流部の軟水が地層を流下していくことで醸造に適した中硬水に変化していることを明らかにした研究である。

11-4は埼玉県、東京都、大阪府、神戸市、福岡市の下水処理水再利用箇所において水質の実態調査とそのときの利用者の意識を調査したものである。水洗用水の容認度では、冬季と夏季に差はなく、ほぼ85%以上であった。親水・修景用水では60～90%と幅があったことが報告された。

(千葉県立中央博物館 小川 かほる)